

◆2018 年度 支部活動報告

【ご報告】 12/8 (土) 東京都支部 講演会「キャリアカウンセラーからみた理科大生」を開催しました。

○報 告

(1) 支部総会

本年度の東京都支部秋のイベントは、東京理科大学キャリアセンターの上條映都子先生（キャリアカウンセラー）をお迎えして講演会を開催いたしました。

約 1 か月前の首都圏合同「就職・進学説明会」全体会では「よろず相談室」のご講演があり、出席者の多くからご興味をもたれた内容だったことや、その後の分科会で卒業生からもキャリアセンターの利用について話があったこともあり、今回ご出席の多くの皆様のご関心を引く内容となりました。

キャリアセンターは各キャンパスにあります。最初に、上條先生からキャリアセンターのお部屋の様子を、写真を交えてご説明いただきました。次に、企業の人事部門が見た若手社員のイメージ（マイナス面）についての紹介があり、そのひとつひとつの項目について、キャリアカウンセラーから見る理科大生を当てはめ、「その部分は心配ない」とか、「理科大生はできています」など、具体的な例を挙げてお話しいただき安心する部分も多々ありました。

その後、現代の大学生の就職活動について「学生が能動的に動くこと」「情報が多く惑わされること」を挙げ、具体的にどうすれば良いかなどお話しいただきました。その中で、「就活に正解はない、ならば探そう」というキーワードが記憶に残りました。

また、キャリアカウンセラーの支援内容について就職活動のどの時期にどのような相談内容が多く、それに対してどのようなアドバイスをされているか、ひとつひとつ具体例を挙げてお話しいただき、会場からは納得のうなずきや、思わず笑いが出るなど多くの興味深い事例で、参加者は熱心にメモを取られていました。ここまでのお話しでキャリアカウンセラーの方は、学生自身に気付かせる、つまり纏まっていない考えを「言語化」する支援をしているということが判りました。

後半は、支援のひとつである大学作成の「ダイアリー」が就職活動に有効なツールで、いつ何をすればよいか、図入りの判りやすいものであると紹介されました。例えば、選考では、個人面接、集団面接、グループディスカッションなど様々な形式がありますが、企業からは面接形態まで聞かされないこともあるので、このダイアリーを活用し、具体的にどのような選考形式があるのか事前イメージすることができるとのことです。また、面接では深堀質問（回答に対して、なぜそうだったのか？なぜそう考えたのか？など更に突っ込んだもの）があるので、自己分析の際など深く考えておくことが必要とのことでした。更に、修士学生では面接のひとつに「技術プレゼン」があるとの話もありました。研究室で実施していることを 5 分でプレゼンし、社員が質疑応答するというものですが、一般に学生は前段階の説明が長いとのこと指摘もありました。多くのお話しの最後に、親の就活サポートは伴奏者であることも伝えていただきました。

講演後、30 分ほど質疑応答の時間が設けられましたが、ここでも多くの参加者からざっくばらんな質問が多く出てとても楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

(2)懇親会

会場を、隣の棟の広い学食に移して立食形式で懇親会が行われました。菅沼支部長の挨拶の後は、4・5人で囲う丸テーブルごとに学部名が書かれた札が置かれ、知らない人同士でも同じ学部・学科で共通の話題で情報共有できるようにしました。同じ学部でも異なる学年の父母が混在していましたが、「就活」や、「理科大」というキーワードなどで話が途切れることなくあっという間の1時間半で、多くの情報交換ができた有意義な時間を過ごしました。



以上